

ふるさと・きずな維持・再生支援事業 事業提案書

【申請団体】

申請団体名 (協議体の場合のみ)	特定非営利活動法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ
代表団体名 (申請団体の)	
代表者の職・氏名	代表理事 牧野 昌子
協議体構成団体①	
協議体構成団体②	
協議体構成団体③	
協議体構成団体④	

【団体情報】

団体ホームページ	http://npoclub.com
又は公開予定日	

※情報公開を行っておらず、かつ公開する見込みのない団体については応募できません

1 事業名

福島への思いを大事に、千葉での暮らしを支えるプロジェクト 2015

2 事業の目的及び地域課題（200字以内）

震災から4年を過ぎた今も、震災および原発災害により千葉県内に避難している福島県民は約3,100名。仕事、住居、経済的なこと、介護、子育て等、被災者の課題は多様で、ひとりひとりの状況に沿った支援が必要とされている。特に、高齢者は周囲との交流がないまま孤立したり、福祉的なサービスを受けずに暮らしている状況が見受けられる。また、震災や被災者への市民の関心は薄れつつあり、理解と関心を促すことが必要と考える。

3 事業の必要性（200字以内）

借り上げ住宅等での暮らしが長引く中、暮らしについての不安は大きくなっていると思われる。福島県の意向調査では住民票を移していない世帯は60.1%となっており、避難先での福祉的なサービス、地域情報が得にくい状況が続いている。また、被災自治体の多くが支援員を配置、戸別訪問等を通して被災者支援を行っているが、避難先が散在する状況の中、効率的、有用な支援を進めるためには支援員間、支援団体間の情報共有が必要と考える。

4 事業内容

【実施取組 1】

被災者間、被災者と地域住民の交流を進めるイベント「縁 joy・東北 2015」開催

主な活動地域：千葉県内（会場：千葉市） 実施期間：H27/6月～H28/12月末

【取組内容】（100字以内）

被災者間の交流、被災者と地域住民の交流及び被災自治体職員や専門家からの情報提供の場として「縁 joy・東北 2015」を開催。当事者主体の取組み（手作り品等の販売）も進め、生活再建の一助とする。イベント開催に向けて実行委員会を組織し毎月開催する。

【実施取組 2】

福島復興と今後を考える集い「おらが町福島!!」の開催

主な活動地域：千葉県内（会場：船橋市予定） 実施期間：H27/10月、H28/2月

【取組内容】（100字以内）

震災から4年が過ぎ、震災についての記憶の風化や被災者への関心と理解が薄れていく中、福島からの避難者と福島出身者の交流とネットワークづくり及び福島県の復興の状況を共有するための場を設定する。

【実施取組 3】

被災者支援情報交換会の開催

主な活動地域：千葉県内 実施期間：H27年/6月～H28年/3月末

【取組内容】（100字以内）

被災者支援活動を行っている団体、専門家（臨床心理士、弁護士等）自治体職員、支援員の参加を得て情報交換会を開催、支援内容を共有することで、必要な支援を作り出し、団体間連携を進める。（平成25年度から継続）

【実施取組 4】

情報紙「縁 joy」の編集、発行

主な活動地域：千葉県内 実施期間：H27年/6月～H28年/3月末

【取組内容】（100字以内）

避難先での生活情報や支援情報、「被災者の今を」掲載した被災者向け情報紙「縁 joy」を月1回編集、発行し被災元自治体の広報紙に同封依頼し、福島県からの被災者全世帯に届けます。（平成25年度から継続）（1月発行号は休刊）

5 事業効果（各200字以内）

県内の支援活動団体間の連携を進め、活動の認知度を高めるとともに、新たな支援を促進することで、被災者の生活状況の把握とニーズに沿った支援を作り出す。また、「縁 joy 東北 大交流会」や「おらが町福島」の開催を通して、被災者間、被災者と支援者間の交流や福島県の復興状況、被災者の「今」を共有する中で、暮らしへの不安を軽減し、住まいや仕事、今後の暮らしの方向性、生活再建への道を見い出せると考える。

【情報発信力】

「縁 joy 東北 2015」では、震災に関わる展示をするとともに、福島をはじめとする東北3県の物産等の販売を通して、東北の復興支援をアピールする。

6 実施団体の運営力強化（各200字以内）

【人材育成の観点】

情報交換会での意見交換の中で、県内の支援団体の被災者の状況に沿った支援について、共有することで、必要とされる支援の内容が獲得できる。また、情報紙「縁 joy」の取材活動等を通して、被災者の声を直接聞くことで、思いや状況の把握ができる。「縁 joy 東北 2015」や「おらが町福島!!」の開催やその準備の中で、被災自治体の職員や専門家から、復興状況、それに関わる施策についての情報を得ることができると考える。

【ネットワーク形成の観点】

県内支援団体（12団体）等をメンバーとする情報交換会を継続開催し、支援活動についての情報交換や課題を共有を進める。支援内容についての見直しや方向性の確認ができている。また、支援団体の企画をそれぞれがネットワークしている被災者に案内し参加の機会を増やすとともに、共催、協力といった形での企画開催を促す。あわせて、大学や自治体等の他の組織にも情報発信や協力依頼を行いと支援団体との連携も促していく。

7 事業スケジュール（月ごと、箇条書き）

月	実施取組 1	実施取組 2	実施取組 3	実施取組み 4
6月				「縁 joy」編集発行
7月	実行委員会開催 （企画概要決定）		情報交換会開催	「縁 joy」編集発行
8月	実行委員会開催 （出展者募集）	広報開始		「縁 joy」編集発行
9月	実行委員会開催 （広報開始）		情報交換会開催	「縁 joy」編集発行
10月	実行委員会開催 （内容詳細決定）	おらが町福島 開催		「縁 joy」編集発行
11月	実行委員会開催		情報交換会開催	「縁 joy」編集発行

12月	〈内容詳細確認〉 縁 joy 東北 2015 開催			「縁 joy」編集発行
1月	実行委員会開催 (ふりかえり)		情報交換会開催	
2月		おらが町福島 開催		「縁 joy」編集発行
3月			情報交換会開催	「縁 joy」編集発行

8 事業の実現性について (200字以内)

平成 25 年度から開催している情報交換会は、参加団体、機関が徐々に増え、有用な内容で情報交換、課題共有ができており、参加団体の継続開催への期待は大きい。また、情報紙縁 joy については、毎月の定期発行を続ける中で、「楽しみにしている」「励まされた」といった被災者からの声が届いている。過去 2 回開催した「縁 joy 東北」は、被災者の主体的な参加を意識し、開催に向けて県内 10 数団体による実行委員会を組織する予定である。

9 事業終了後の展開・発展性 (200字以内)

千葉県内に避難している被災者の生活再建に向けて、県内の支援団体、被災自治体の支援員、専門家、自治体職員等との情報交換、課題共有の場「情報交換会」を継続することで、ニーズに沿った支援を作りだしていく。また、震災や被災者の暮らしへの関心と理解が風化しないようなイベントを継続開催する。あわせて、被災者、福島出身者のゆるやかなネットワークづくりを進め、福島県人としてのアイデンティティの保持を目指す。

10 事業の先進性・普及性 (200字以内)

支援団体は、それぞれ思いを持って地域ごとに活動しているが、被災者の課題が潜在化する中、支援内容について迷いを持つことも多い。団体間での情報交換、自治体職員や専門家からの情報提供により、支援の方向性を見出すことができている。県内の団体を取りまとめ、被災者支援についての協議を行っている事業は他にはない。また、被災自治体支援員についても支援団体と連携することで、より有用な支援が生み出せると考える。

11 特記事項 (アピールポイントなど) (200字以内)

平成 25 年度から事業継続により、県内に避難する被災者の状況について、一定の把握ができ、不安の軽減、生活再建につながる事業内容がイメージできる。福島県内の各自治体担当課ともつながりを持って事業を行ってきており、県内の支援団体等をメンバーにする情報交換会を通してネットワークづくりが進み、団体間の日常的な情報交換、連携を生み出してきている。事業の継続が県内に避難している被災者支援の拡充につながると考える。

12 その他の助成金について

① 当該申請事業について、他の助成金も受けている。 答えが「はい」の場合のみ②へ	はい / いいえ
② 他の助成金を受けているが、当該申請事業と明確に区別することができる。	はい / いいえ

※ 他の助成金を受けた事業と明確に区別できない場合は応募できません。

第3号様式(第4条関係)

ふるさと・きずな維持・再生支援事業 収支予算書

申請者名 特定非営利活動法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ

【支出の部】

(単位:千円)

区 分	平成 27 年度 予 算 額	明 細
人件費(共済費を含む)	1,900	@10,000円×10日×2人×9.5ヶ月=1,900,000円
報償費	267	「おらが町」事例報告者謝金@9,300×3人×2回=55,800円 「縁 joy・東北 2015」支援団体等謝金@5,000×20=100,000円、ステージ出演者@28,000×4人=11,200円
旅費	278	事例報告者交通費@3,000×3人×2回=18,000円 事務局交通費@20,000×9.5ヶ月=190,000円 「縁 joy・東北 2015」講師等交通費=30,000円 情報交換会・実行委員会委員交通費=40,000円
需用費 a1+b1+c1	342	
消耗品費 a1	76	@8,000円×9.5ヶ月
燃料費 b1	20	「縁 joy・東北」交流会時荷物運搬等
印刷製本費 c1	246	情報紙印刷(2500部)@24,000円×9回=216,000円 「縁 joy・東北 2015」交流会チラシ15,000円 「おらが町」開催チラシ15,000円
役務費 a2+b2+c2	254	
通信運搬費 a2	239	情報紙 21,000円×9回=189,000円 「縁 joy・東北 2015」交流会チラシ送料10,000円 「おらが町」チラシ送料10,000円 「縁 joy・東北 2015」関係30,000円
手数料 b2	5	銀行振込手数料
保険料 c2	10	「縁 joy・東北 2015」交流会開催時の保険
使用料及び賃借料	270	「縁 joy・東北 2015」時送迎バス100,000円、会場費40,000円、機材借料120,000円 「おらが町」会場使用料@5,000×2=10,000円
委託料		
A. 支出合計	3,311	千円未満切捨

【自己資金の部】 ※自己資金は支出合計の2割以上が必要です。

(単位：千円)

区 分	平成 27 年度 予 算 額	明 細
自己資金（負担者名）	663	
寄付金等		
その他収入	30	「おらが町」参加費 500 円×30 人×2 回
事業収入		
B. 自己資金合計	663	千円未満切捨

【補助金交付申請額】 2,648 千円 (A. 支出合計－B. 自己資金合計)

- 注1 用紙の大きさは、A列4番とすること。欄が足りない場合は、適宜追加してください。
- 注2 「明細」欄には各区分の積算内訳として、名称、数量、単価、金額を必ず明確に記載すること。なお、「明細」については別紙として添付しても差し支えない。仕様については別途資料を添付すること。
- 注3 行政による他の補助事業も併せて利用する場合は、各補助金の使途を明確に区分し、この資金計画には、ふるさと・きずな維持・再生支援事業補助金を使用する部分の収支のみ記載すること。他の補助事業にかかる収支についてはこの資金計画には計上せず、別様式にて収支予算書を添付すること。また、他の補助事業の内容が分かる補助金交付要綱、要領等、使途の区分が分かる資料を添付すること。